

14033

題：新聞・雑誌の「必要性の有無」と「需要」の違いについて

名前：

右について、よろ。

私の考えとしては、将来、新聞・雑誌の必要は急速に発展し、日本国内には、一家に一台入っている。インターネット上で、大手新聞社、ショッピング、ファッション等、雑誌に取りの雑誌的情報は、欲しいとき（旅行前など）いから、インターネットで検索できる方が、一方、インターネット上の情報のは人溢れはないことが挙げられてはいる。しかし、大手出版社などが今後ネット上で、いままでのまると考えられる。情報の信用度は、その情報セキュリティ上の問題もそのつど解決すれば、このように、私はインターネットの情報の下ると考える。しかし、このことは、新聞い。紙の書物が、私に人聞に長年与えてきたことができないだろう。ページをめくかして文章を読むことは、似ているようで全ネットの画面をプリントアウトすればよいとすることは、つまり、新聞・雑誌を作っている様式を真似ることもあるから、そういう流れは、きっと後世にはつづいていくことになる

→ 必要性はなくなると思う。今、インターネット
→ 以上のパソコンがあり、図書館等にも設置して
→ の記事が閲覧できるし、音楽情報、グルメ、上げられる話題も入手できる。また、それらに手軽に素早く手に入らなければいけない消費者としては好ましいだろう。危惧する声として、それらの情報に信頼がおけについては、新聞・雑誌を編集してきた大まかに情報の掲載を始めることが、解決で読ソースの信用度に基づくからである。また、いいだけである。方が効率的であり、新聞・雑誌の必要性は新聞・雑誌の「需要」がなくなることは意味しない。あくまでも、質感といったものを、私たちが読んで文章を読むことと、ネットでマウスを動かす感覚のものである。この点についても、いう意見もあるだろうが、プリントアウトすることによる。また、社会の流行として、昔の中で、若者も、新聞・雑誌をもつことの喜と思われる。

1800字